

総合計画策定審議会 第6回第2専門部会 議論シート

分野	これまでの議論	論点	分野	施策	これまでの議論	論点
防災・安全分野	1. 防災・消防・救急	<p>（中間報告に掲載されている部分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民の生命や財産を火災や地震などから守り、被害を最小限に抑えるためには、施設整備や装備の高度化などによる消防力の強化が必要です。 災害時には行政だけでは対応できないことから、市民の防災意識を高め、地域全体で防災対策に取り組むことが重要となっています。 地域の防災活動の中心となる自主防災組織の結成を促進し、行政と連携して、ひとり暮らしの高齢者、障害のある人、乳幼児など、災害に弱い人々に迅速に対応できる体制づくりが必要です。 地震による建築物の倒壊被害を未然に防止するためには、建築物の耐震化をすすめることが重要です。特に、災害時の避難所となる学校施設などの耐震化をすすめる必要があります。 災害発生時には、水や食料、衣料品などの生活必需品を迅速に供給することが重要であり、災害用備蓄物資・資器材の確保に加え、民間企業から優先的に供給を受ける流通備蓄の確保が必要です。 高齢化の進行などにもない、救急出動件数は増加傾向にあることから、救急体制の整備、充実をはかるとともに、市民への応急手当法の普及啓発などに努め、救命率を向上させることが必要です。 <p>（議論済みの項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 帯広の防災については、地震に対する備えのほか、最近では帯広においても、集中的な豪雨が起きていることから、水害に対する備えも重要。 タクシーの代わりに救急車を利用するなど、救急車の不適切な利用をした人々に対する対応が必要。 	議論済み	6. 平和と人権	<p>（中間報告に掲載されている部分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域社会には、様々な人たちが、それぞれの役割を担いながら暮らしています。障害の有無や年齢・性別などにかかわらず、すべての人が暮らしやすい社会を実現するためには、それぞれの人が立場の違いを理解し、お互いに人権を尊重し、支え合うための環境整備をすすめていくことが必要です。 	議論済み
	2. 防犯	<p>（中間報告に掲載されている部分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 事件に関する情報の迅速な提供などにより、市民の防犯意識を高めるとともに、子どもの登下校時の見守り活動や放課後対策など、学校・家庭・地域が連携・協力し、地域全体で犯罪が起きにくい環境づくりに取り組み、市民が安心して暮らせる、犯罪のない安全なまちづくりをすすめることが必要です。 	議論済み	7. 男女共同参画社会	<p>（中間報告に掲載されている部分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 性別にかかわらず、意欲と能力に応じて、仕事、家庭など様々な分野で活躍できる男女共同参画社会を実現することが求められていますが、女性は、結婚、出産、子育て期に仕事をやめる傾向があります。このため、女性が働きながら子育てしやすい職場環境を整備することや、男性が家事・育児・介護などを協力・分担するなど家庭への参画を一層すすめ、自らの生活を見つめ直すことが必要です。 <p>（議論済みの項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「仕事と生活の調和」を推進していくことが重要。このことは、男性も女性も自らの生活を見直すということである。 労働力人口の減少において、女性の能力は重要なマンパワーとなってくる。 計画等の策定段階から女性の視点を取り入れることが必要。 	<p>男女平等意識の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> セミナーの開催、情報誌の発行 <p>女性への暴力防止</p> <ul style="list-style-type: none"> DV被害者自立支援 女性の人権相談事業
	3. 交通安全	<p>（中間報告に掲載されている部分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 悲惨な交通事故をなくすためには、交通安全意識の啓発や、徒歩や自転車を利用する機会が多い高齢者や児童・学生などを対象とした交通安全対策が必要です。 <p>（議論済みの項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通安全施設整備においては、通学路や自転車道などが使う道路を優先的に整備すべき。 	議論済み	8. ユニバーサルデザイン	<p>（中間報告に掲載されている部分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの考えに基づき、誰もが住みやすいまちづくりをすすめていくことが必要です。 <p>（議論済みの項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ハードの部分に力点を置くだけでなく、ソフトがユニバーサルであることが必要。 高齢社会において、公共交通機関など高齢者が移動するための手段は大きな課題。 	議論済み
	4. 消費生活	<p>（中間報告に掲載されている部分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 悪質商法の被害にあう消費者が依然として多いことから、被害予防のための情報提供や消費者教育をすすめ、自立した消費者を育てるほか、消費者からの相談を受ける体制の充実が必要。 	<p>公正取引の促進について</p> <ul style="list-style-type: none"> 計量器の検査、計量品目の立入検査 	9. アイヌの人たち	<p>（中間報告に掲載されている部分）</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての人が暮らしやすい社会を実現するためには、それぞれの人が立場の違いを理解し、お互いに人権を尊重し、支え合うための環境整備をすすめていくことが必要です。 <p>（議論済みの項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本における差別の問題は、アイヌだけではなく、幅広い問題である。 	<p>アイヌの人たちについて</p> <p>（参考）</p> <ul style="list-style-type: none"> 帯広市では、アイヌ施策推進計画に基づき、教育の振興 アイヌ民族についての理解促進 文化の振興 生活の自立と生活環境の充実についての施策を展開。
保健・福祉分野	5. 保健・医療	<p>（中間報告に掲載されている部分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民が自ら健康を管理し、その増進に努めるとともに、生活習慣病などの病気を予防するための取り組みをすすめることが必要です。 医療を取り巻く環境は、地方における医師不足などにより、大きな課題に直面しています。帯広市においても、二次救急体制の維持が課題となってきたり、今後、管内病院の診療所への転換がすすむことで、市内の医療機関への影響が懸念されます。こうしたことから、医師会など関係機関との連携をはかり、十勝圏の医療環境を充実していくことが必要です。 <p>（議論済みの項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間外の診療を止めることや、かかりつけ医による診療を受け、必要であれば大病院に行くなど、患者側が医師を疲弊させないための協力は、医療体制を維持していく上で重要。 	<p>医療機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 一次、二次、三次医療 夜間急病センター 	10. 地域コミュニティ	<p>（中間報告に掲載されている部分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティは、良好な生活環境を築くための基礎となるものであり、災害などの緊急時においては、重要な役割を果たすものです。 町内会は、地域コミュニティを形成する上で大きな役割を担っていますが、地域の高齢化や人口の減少、更には、町内会への加入率低下などの課題を抱えています。 町内会や地域のサークル活動などを活発にするため、誰もが参加しやすい環境づくりを地域と行政が協力して取り組んでいくことが必要です。 <p>（議論済みの項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> 人のコミュニケーションを促進するため、人が集まる場所の有効活用が必要。 誰もが集まりやすい町内会活動となるよう、工夫が必要。 	議論済み